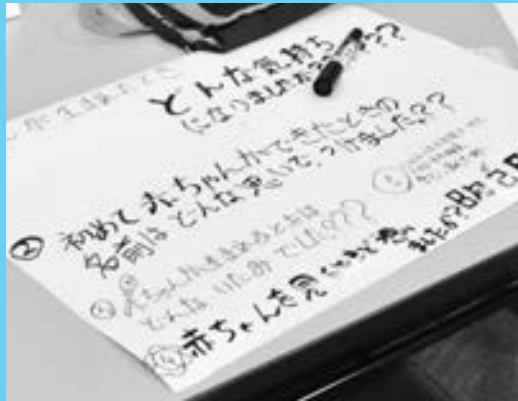


甲佐中生徒の 子育て体験 「ハロー Baby!」



●甲佐中生徒を対象に開催した子育て体験「ハローBaby!」●(右ページ)妊婦体験シミュレーターや赤ちゃんの人形を使って、子育てについて体験学習●(左ページ)10か月児教室に参加した赤ちゃんやお母さん・お父さんと交流する中学生たち。実際に赤ちゃんに触れ合い、抱っこや着替え、おむつ交換などにも挑戦



保護者の疑似体験で
子育ての苦労などを体感

8月2日(金)町総合保健福祉センターで、中学生の子育て体験「ハローBaby!」が開催されました。

思春期の子どもたちが、妊婦の疑似体験や赤ちゃんとの触れ合いを通して、親子の愛情、子育ての楽しさや苦労、命の尊さなどについて考える体験教室で、町総合保健福祉センターが主催。

夏休みを利用して開催され、甲佐中学校(作田潤一校長266人)の生徒29人が参加。体験教室では、赤ちゃんを持つ保護者の疑似体験、10か月児教室に訪れた赤ちゃんとの触れ合いとお母さん・お父さんたちとの交流、乳児の抱っこ体験を行いました。

7kgの重りをお腹に着用して妊婦の大変さを実感

実際に赤ちゃんに触れ合う前に、妊婦の疑似体験を受講。保健師の指導の下で、妊娠7〜8か月の妊婦の体験を実習しました。

約7kgの重さがある妊婦体験シミュレーターを装着した状態で、歩く動作や床に置いた本を取る動作、大きなお腹を抱えて寝たり、起き上がったたりする動作などを体験。体を



自由に動かせない妊婦の大変さを実感しました。

赤ちゃんとの触れ合いを通して感じる命の温かさ

妊婦の疑似体験の後、中学生たちは同日に開催していた10か月児教室に合流して、実際に赤ちゃんに触れ合って子育てを体験しました。

赤ちゃんとお母さん・お父さんなどと対面し、赤ちゃんの身体計測を手伝い、着替えやおむつ交換を実際に体験。赤ちゃんたちが自由に動き回ったり、大声で泣き出したりして、子育て体験は四苦八苦。抱っこしたり、おもちゃであやしたりして、優しく触れ合うことで少しずつ慣れて、笑顔で接することができるようになりました。

また、子育ての苦労や赤ちゃんの名前の由来など、事前に考えた保護者への質問を発表。保護者は、中学生の疑問に丁寧に答えました。

10か月児教室の終了後は、首が据わっていない赤ちゃんの人形を抱っこして、赤ちゃんがどれほど小さくて、弱い体であるかを実感。最後に、交流した赤ちゃんの保護者に向けて感謝のメッセージを書きました。

参加した中学生は「これからは、妊婦さんや子育て中の人への心遣いをしていきたい」と話しました。